



Jichi 地域連携ニュース

- ・病院長就任のご挨拶 佐田尚宏
- ・H27年度 附属病院の体制
- ・副病院長就任のご挨拶 山本博徳
- ・NST研修会のご案内
- ・認定看護師の活動状況 古沢綾子

病院長就任のご挨拶

消化器外科 教授 佐田尚宏



2015年4月に自治医科大学附属病院長を拝命しました。今後ともご指導いただきますよう、宜しく申し上げます。2014年の診療報酬改定で病床機能報告制度が開始されました。それに加えて都道府県による地域医療構想策定ガイドラインが作成されるなど、地域連携は以前にも増して重要な課題となってきました。当院では本年11月の病院機能評価再受審を控えて、理念・基本方針の見直しを行い、今後さらに重要となる地域連携を強調すべく「地域と連携する医療」を理念に加えました。

改定した附属病院の理念は

- (1) 患者中心の医療
- (2) 安全で質の高い医療
- (3) 地域と連携する医療
- (4) 地域医療に貢献する医療人の育成

の4点です。2004年に新臨床研修制度が導入され、大学病院の地域への医師供給能力低下などが原因で、栃木県の地域医療が危機に瀕した時期がありました。この時期に当院では受診者数が著明に増加し、中央手術部、救命救急センターなどでオーバーフローの状態となりました。そのため当院では栃木県内を中心に多くの病院にスタッフを派遣し、手術連携病院を組織し、自治医科大学関連病院群として、より多くの患者さんに質の高い医療を提供できる体制を整えてきました。今後も患者数は増加することが予想され、より一層地域との連携が重要になってきます。病床機能報告制度において機能別病床再編成のゴールが設定されている2025年に向けて、当院は2018年開設予定の新館南棟（仮称）建設をはじめ、本館・新館リニューアルなどの新規事業を計画し、高度急性期医療の充実を図ります。また2017年には新専門医制度が発足します。専門医育成のためには医療の質を含めた自治医科大学関連病院群における医療の真の均霑化を図ることも重要な課題です。自治医科大学附属病院は栃木県の地域医療に貢献し、かつ栃木県における高度急性期医療のリーダーとなることを目標として、スタッフ一丸となり努力を継続します。今後ともご指導、ご鞭撻いただきますよう、宜しくお願い申し上げます。

<H27年度 附属病院の体制>

役職	氏名	担当	所属・職名
病院長	佐田 尚宏		消化器センター長
副病院長	杉山 幸比古	総務、病院リニューアル担当、外来診療運営部担当	呼吸器センター長
	渡邊 英寿	総務担当、企画経営部担当、保険診療担当、医事、病院経営担当、組織、機構、予算担当	脳神経センター長
	山本 博徳	入院診療運営部担当、がん拠点病院担当	光学医療センター長
	竹内 護	救急部、集中治療部、麻酔科等機能検討担当、中央施設診療運営部担当	麻酔科科長
	長田 太助	地域医療連携担当、病院機能評価担当、健診センター担当	腎臓センター長
	朝野 春美	看護部業務担当	看護部長

役職	氏名	担当	所属・職名
病院長補佐	山形 崇倫	とちぎ子ども医療センター担当、小児医療担当、看護システム支援担当	とちぎ子ども医療センター長
	新保 昌久	医療安全担当、労働環境改善担当、レジデント獲得、卒後指導担当	卒後臨床研修センター長
	小池 創一	企画経営部担当、病院広報担当	企画経営部室長
	興梠 貴英	病院情報システム担当	医療情報部長

副病院長就任のご挨拶



消化器内科 教授 山本博徳

2015年4月1日付で副病院長に就任いたしました消化器内科の山本博徳です。この場をお借りして就任のご挨拶をさせていただきます。

さて、近年大学病院を取り巻く環境は決して容易いものとは言えない状況になっています。超高齢化社会を迎え、医療経済への影響は大学病院にも及んできています。また、医療の進歩は喜ばしいことではありますが、高度に医療が進歩すれば医療費も高価となり、医療経済にはかなりの負担となってきています。

私は医療費のことにあまり神経を使わず、患者さんのために必要な医療を気兼ねなく行える傾向のあった大学病院の医療に居心地の良さを感じていたのですが、経営を意識した病院運営に大きく関与する立場となってしまいました。

とはいえ病院の使命が患者さんに安全で質の高い医療を提供し、健康で幸せな方向に導く手助けをしていくことにあり変わりはありません。レベルの高い医療を提供し続けていくためには医療経済も意識した健全な病院運営が必要だと考えています。

具体的には出来る限り無駄をなくし、効率的に業務を推進できるような構造改革を行い、医療職員が医療職に専念できる環境を整えていこうと考えています。受診される患者さんはもちろん、病院職員にとっても満足度の高い病院を目指していくつもりです。

同じく今年度から就任された佐田尚宏病院長に協力する形で自治医大病院の発展に努めていこうと考えています。自治医大病院の理念にうたわれているように地域と連携しながら質の高い医療を提供し、地域医療に貢献する医療人の育成にも力を入れていく所存ですのでよろしくご支援お願い申し上げます。

✿ NST研修会のご案内

参加無料（申し込み不要）

会場 自治医科大学地域医療情報研修センター 中講堂（本館西側の茶色の建物）
 対象 NSTのための専門的な知識・技術を有する看護師・薬剤師及び管理栄養士の養成を目的とした研修
 問合先 臨床栄養部 NST支援室 ☎ 0285-58-7574 メール nst@jichi.ac.jp

演題	日程	講師
経腸栄養について(プラン・モニタリング) 経腸栄養から経口栄養への移行について	8月4日(火) 18時～19時	臨床栄養部 川畑奈緒 管理栄養士(NST専任管理栄養士) リハビリテーションセンター 富樫結香 言語聴覚士(NST運営委員)
静脈栄養について(プラン・モニタリング)	9月1日(火) 18時～19時	消化器外科 倉科憲太郎医師 (NST運営委員長) 薬剤部 亀田尚香 薬剤師(NST専任薬剤師)
第19回下野栄養管理研究会 (仮テーマ がん患者の血糖管理)	10月7日(水) 時間未定	国立がん研究センター中央病院 総合内科 科長 大橋健 先生

《専門・認定看護師の活動状況》

認知症看護認定看護師 古沢綾子



私は、腎臓内科病棟（2E）に勤務しています。看護経験の中で、もう少し認知症の理解を深めて、なんとか認知症看護の質を高めたいと思い、2014年7月に認知症看護認定看護師となりました。

認知症をもつ高齢者の数は2012年に300万人を超え、2025年には470万人（高齢者人口の12.8%）に達すると推定されています。（厚生労働省老健局資料より）そのため、急性期病院においても認知症ケアに対応できる体制づくりや人材育成は必須です。急性期病院での認知症ケアの特徴は、在宅（介護施設を含む）から一時的に治療を受け、また元の生活の場に戻るといった短期集中的なケアにあります。残念ながら、病気や外傷、治療の影響により一時的に食事をする、トイレに行く、お風呂に入るなどの日常生活動作のレベルが低下したり、病気が回復しても、認知症の症状が悪化してしまったりということが聞かれることも少なくありません。従って、入院当初から元の生活に戻ることを見据えて、早急に回復するために、治療、療養環境を整え、認知症の症状の悪化の予防、日常生活動作の維持に取り組み、退院に向けた支援を行わなければなりません。

当院の看護部では「私たちは、患者・家族の皆様が、安心と満足の得られる看護を提供します。」と理念を掲げています。急性期病院への入院は緊急入院も多く、急な環境の変化や苦痛を伴う様々な検査や医療処置があります。認知症の人はそれらに対する痛みや不安をうまく表現できずに、様々なストレスにさらされ、混乱してしまうことも多くあります。そのために、認知症看護としては、認知症の人とその家族が安心して過ごすことができる環境づくり（人のかかわりも含む）を目指しています。実際に日々取り組んでいる看護としては、言葉としての表現だけでなく表情や行動から全身状態の観察を行い、苦痛、不安の緩和、せん妄の予防とケア、もてる力を生かした日常生活動作の支援などがあります。また当病棟では看護師を対象に認知症の勉強会を開催し、認知症の理解と日々の認知症の人の看護の質を高めるために努力しているところです。今後は、認知症に関わる人々の認知症への理解が深められるように少しでも活動していけたらと思っています。

最後に、言うまでもなく、認知症ケアにおいて認知症という病気を抱える本人、家族やその方々を支える地域の方々、多角的な視点をもった多職種との連携は必須です。認知症の人が急性期病院に入院してくることはその人その人の長い人生においては本当に短い期間です。入院のきっかけとなった疾患の影響は少なからずあるにせよ、その短い期間によってその後の生活の質を大きく低下させるようなことはできる限り避けなければなりません。今後とも、認知症の人、家族、地域の方々と日ごろのコミュニケーションや面会、面談、サマリー、カンファレンスなどを通して、目標、情報を共有し、安定した状態でそれまでと同じ生活を長く続けられるように支援していきたいと思えます。今後とも地域の方々からのご指導、ご鞭撻をよろしく願いいたします。